

# 平成 29 年度 事業計画

平成 29 年 3 月

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

平成29年度 公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター  
事業計画書（案）

○ 中期計画に基づく事業計画の概要

公財) 阿蘇地域振興デザインセンター（以下、阿蘇 DC）の中期計画に基づく平成29年度の事業計画は次のとおりとする。

事業分類	事業テーマ	事業	予算額（単位：千円）
取り組み1	地域の元気再生による地域力向上	(1) 元気再生支援事業	6,050
		(2) 的確な情報の発信	3,700
		(3) 阿蘇回帰運動への取り組み	350
		(4) 人材育成事業	450
取り組み2	豊かな自然による世界ブランドの確立	(1) 草原再生 PR 事業	4,505
		(2) 野焼き支援事業	1,505
		(3) 阿蘇製品の振興	2,100
		(4) 世界ブランド事業の推進	10,010
取り組み3	広域連携による競争力のある観光地づくり	(1) 新たな観光資源の構築・推進	2,900
		(2) 広域連動型観光まちづくり	4,000
事業費総計			35,570

○ 事業内容

**《取り組み1 地域の元気再生による地域力向上》**

【（1）住民主体の復興アクションへの支援（阿蘇地域元気再生支援事業）】


事業内容	<p>平成28年に発災した熊本地震以降、人口の流出や観光客等の減少に拍車がかかるなか、阿蘇地域の元気を再生するため地域の団体に対し支援を行う。</p> <p>具体的には阿蘇の地域団体や組織が行う地域の資源を活かした振興策、災害からの復興に向けた取り組みや活動を支援するため、地域イベントの実施などの魅力ある地域づくりと、地域の活性化を図ることを目的とした取り組みや事業に対して助成を実施する。</p> <p><b>【1 阿蘇地域元気再生支援事業】</b></p> <p>上記の内容を目的とした各市町村の地域団体や組織が行う事業に対し助成を行う。補助額等は検討段階であるが、平成29年度第1回理事会（5月末頃）に要綱の改正を提案し、募集を開始する予定である。</p>		
予算額	<p><b>【総額】 6,050千円</b></p> <p>① 阿蘇地域元気再生支援事業支払助成金 6,000千円</p> <p>② 事務経費 50千円</p>		

【 (2) 的確な情報の発信 】


事業内容	<p>阿蘇地域の市町村や関係機関と連携しながら、地域の情報や活動、観光に関する情報、復興への取組み、交通インフラ情報などを一体的・一元的に各種媒体やメディアを通して発信する。また、これらの情報を地域内で共有できる環境を整備する。</p> <p>阿蘇地域における情報拠点を目指すこと（阿蘇 DC のハブ化）で、観光面における阿蘇地域のイメージの向上と、地域経済の活性化を図る。</p> <p>【1 阿蘇への入口となるポータルサイトの設置】          今まで当財団が運営してきた「阿蘇ナビ」の改修を図り、阿蘇へ訪れる方々に対し、阿蘇管内の市町村（山都町を含む）の食や宿泊などの観光情報や、移住定住等に関する情報を一体的に発信するため整備を行う。</p> <p>【2 阿蘇 DC ホームページの管理・運営】          従来から運営する阿蘇 DC 公式ホームページ（<a href="http://www.asodc.or.jp/">http://www.asodc.or.jp/</a>）を引き続き運営し、阿蘇地域元気再生支援事業を始めとする阿蘇 DC の取り組む事業等を広く周知する。</p> <p>【3 地域住民に身近な情報媒体での情報発信】          地域の CATV（おぐチャン、みなみチャンネル、TPC、Web TV アソ 等）を活用し、阿蘇 DC の取り組みや阿蘇の突出した取り組みを発信する。</p> <p>【4 情報誌・機関紙の制作】          阿蘇管内の住民への阿蘇 DC の認知度を高めるため、阿蘇地域各市町村の発行する広報誌への協力を仰ぎ、紙面の一部に阿蘇 DC の情報を掲載する。</p>								
予算額	<p>【総額】 3,700千円</p> <table border="0"> <tr> <td>① ポータルサイト「阿蘇ナビ」改修費</td> <td>2,500千円</td> </tr> <tr> <td>② 阿蘇 DC ホームページ管理運営費</td> <td>300千円</td> </tr> <tr> <td>③ 上記事業③～④ 委託費</td> <td>500千円</td> </tr> <tr> <td>④ 事務経費（デジタルサイネージ撤去費等）</td> <td>400千円</td> </tr> </table>	① ポータルサイト「阿蘇ナビ」改修費	2,500千円	② 阿蘇 DC ホームページ管理運営費	300千円	③ 上記事業③～④ 委託費	500千円	④ 事務経費（デジタルサイネージ撤去費等）	400千円
① ポータルサイト「阿蘇ナビ」改修費	2,500千円								
② 阿蘇 DC ホームページ管理運営費	300千円								
③ 上記事業③～④ 委託費	500千円								
④ 事務経費（デジタルサイネージ撤去費等）	400千円								

【 (3) 阿蘇回帰運動への取り組み 】

事業内容	<p>従来からの過疎化に加え、今後、熊本地震を機に人口流出がさらに進むことが予測されており、そのことで市町村財政への影響（交付税の減少）や担い手不足による各種産業の衰退などが懸念されるなか、阿蘇地域への移住・定住を促進させることは緊急的課題である。阿蘇地域の各自治体及び関連団体で実施している移住・定住に係る取組みの情報を一元化し、“移住定住希望者に好感度の高い阿蘇地域”の詳細な情報の発信・提供を行う。</p> <p>近年、移住定住に関する地域間競争が激化しており、担当者のスキルアップを図ることも重要であり、全国の様々な取り組みについて「学習」する機会の創出を図ることを目的に実施す</p>
------	---

	<p>る。</p> <p><b>【1 ふるさと回帰フェアへの出展】</b></p> <p>毎年東京や大阪で開催されている移住定住を目的としたフェアへ参加し、阿蘇への移住定住の促進を図る。なお、各種助成事業の活用も視野に入れながら、情報ツールとしてのパンフレット作成やSNSを活用した情報発信及び移住・定住に関する研修会の開催、ワンストップ窓口の開設を行う。</p>	
予算額	<b>【総額】</b> 350千円	
	① ふるさと回帰フェア出展費 300千円	
	② 事務経費 50千円	

**【(4) 復興支援活動の取り組みへの支援（人材育成）】**

事業内容	<p>震災からの創造的復興や地域振興、または地域づくりを推進する組織・個人が実施する活動への可及的広範なサポートを行う。情報交換や、人材交流、人材の発掘を目的とした研修会などを計画し、“人と人がつながる場所”を提案・提供する。</p> <p>また、自治体や各事業者などの属性を問わない情報及び人的な交流を推進することで、広域的な人材育成へ繋げる。</p> <p><b>【1 地域づくりに係る研修会・ワークショップの開催】</b></p> <p>阿蘇地域の3つのエリア（北部・中央部・南部）ごとに、地域づくり実践者を招いての研修会及びデザインセンターOBなどを交えたワークショップも合わせて開催する。</p> <p>なお、研修会内容については関係市町村と適宜協議のうえ決定する。</p> <p>(例) 井澤りこ氏（美里フットパス協会代表）、桑野和泉氏（由布院温泉観光協会会長）、河井昌猛氏（ふるさと発・復興会議長）、嵩和雄氏（NPO ふるさと回帰支援センター）等</p>	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>桑野由布院温泉観光協会会長</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ふるさと発・復興会議の活動</p> </div> </div>	
予算額	<b>【総額】</b> 450千円	
	① 研修会開催費（講師謝金等） 300千円	
	② 事務経費 150千円	



## 《取り組み2 豊かな自然による世界ブランドの確立》

### 【 (1) 草原再生 PR 事業 】

事業内容	<p>草原景観維持の施策を地域統合的に検討実施する目的で熊本県主導のもと立ち上げた「草原保全支援システム」へ阿蘇DCの事業を付託する。内容は（公財）阿蘇グリーンストックの事業が基軸となり、適宜、関係者で協議する。</p> <p>【1 阿蘇草原保全支援システムへ負担金支援】</p>
予算額	【総額】 4,505千円
	① 草原保全支援システム負担金 4,500千円 ② 事務経費（旅費） 5千円

### 【 (2) 野焼き支援事業 】

事業内容	<p>草原景観維持の施策を地域統合的に検討実施する目的で熊本県主導のもと立ち上げた「草原保全支援システム」へ阿蘇DCの事業を付託する。内容は（公財）阿蘇グリーンストックの事業が基軸となり、適宜、関係者で協議する。</p> <p>【1 阿蘇草原保全支援システムへ負担金支援】</p>
予算額	【総額】 1,505千円
	① 草原保全支援システム負担金 1,500千円 ② 事務経費（旅費） 5千円

### 【 (3) 阿蘇製品の振興 】

事業内容	<p>あか牛をはじめとする阿蘇の畜産や農産物など、阿蘇の世界ブランド確立の礎となる製品の魅力を発信し振興を図る。昨年に引続き、都市圏に向け阿蘇製品の魅力を発信するため、各種PRを行うと共に物産販売の機会を創出し、熊本地震の影響で停滞する阿蘇製品の消費拡大に向けた取組みを行う。</p> <p>【1 阿蘇製品の振興に向けたPR活動】</p> <p>福岡市天神地区で平成28年11月に開催された「阿蘇くじゅう観光圏」と大分県「豊の国千年ロマン観光圏」の連携イベント「来なっせ熊本 来ちよくれ大分」に阿蘇地域世界農業遺産推進協会事務局（熊本県）や阿蘇地域の道の駅、物産館とともに「阿蘇フェア」として出展し、あか牛を含む阿蘇地域の各種製品の販売とPR、観光案内やアクセス状況の説明などを展開した。</p>
------	--

	<p>熊本地震の発災から約一年が経過する中で、都市部を中心に熊本地震への関心が風化しつつある状況である。その為、平成 29 年度も各団体と連携をとり、阿蘇製品の消費拡大と熊本地震からの復旧復興に対する意識啓発を促すための PR 活動を引き続き展開する。</p> <p>自治体などが企画する大型の熊本 PR イベントに阿蘇地域として出展を行い、阿蘇製品の PR を行う。併せて、本取り組みが一過性の取組みとならぬよう、通年で使用できる広告物の展開も行う。</p> <p>&lt;イメージ&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>都市部での PR イベント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売機会の創出</li> <li>・都市部との交流 など</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>消費拡大を促す広告物の展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベント会場や施設などに広域に設置</li> <li>・イベント開催にとられない長期間の PR</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 60%; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;"><u>阿蘇製品の振興に向け、年間を通じた取組みを展開</u></p> </div> </div>						
<p>予算額</p>	<p>【総額】 2, 100 千円</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 75%;">阿蘇製品 PR イベントの開催費</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">2, 000 千円</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>事務経費</td> <td style="text-align: right;">100 千円</td> </tr> </table>	①	阿蘇製品 PR イベントの開催費	2, 000 千円	②	事務経費	100 千円
①	阿蘇製品 PR イベントの開催費	2, 000 千円					
②	事務経費	100 千円					

【 (4) 世界ブランド事業の推進 】

<p>事業内容</p>	<p>阿蘇ジオパークは平成 26 年 9 月に世界ジオパーク認定を受け協議会設立の当初の目的を達成した。28 年度には阿蘇 DC から同協議会の事務局が独立したことから、財政面において阿蘇ジオパークの推進体制の運営に向けた支援を行う。</p> <p>【1 阿蘇ジオパーク推進協議会へ負担金支援】</p>						
<p>予算額</p>	<p>【総額】 10, 010 千円</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 75%;">阿蘇ジオパーク推進協議会負担金</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">10, 000 千円</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>事務経費</td> <td style="text-align: right;">10 千円</td> </tr> </table>	①	阿蘇ジオパーク推進協議会負担金	10, 000 千円	②	事務経費	10 千円
①	阿蘇ジオパーク推進協議会負担金	10, 000 千円					
②	事務経費	10 千円					

## 《取り組み3 広域連携による競争力のある観光地づくり》

### 【 (1) 新たな観光資源の構築・推進 】

これまで推進してきた阿蘇カルデラツーリズムを継承しながら「食と農、暮らし、景観」をテーマとしたツーリズム活動を推進する。耕作放棄地を活用した景観整備に加え、それらを利用したツーリズム活動の構築を図る。また従来からの、阿蘇グリーンツーリズム協議会、阿蘇エコツーリズム協会、阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の活動費負担を行うと共に相互の連携を図る。

また、事務局移行調整が難航し28年度も事務局業務を継続した阿蘇エコツーリズム協会については、29年度に事務局の移行を行うべく関係団体との協議を行う。

合わせて、年度内に全国各地で開催される観光PRイベント等にも参加し、観光資源の推進を図る。

#### 【1 あそフラワーツーリズム（あそ花旅）の構築】

花を愛でることは日本独自の文化であることから、阿蘇にある多彩な花を活用した交流による国内客をターゲットとした「あそフラワーツーリズム（花旅）」を構築すると共に、「復興・復旧」の景観づくりの一環として取り組む。同時に、各市町村の花に関する情報発信も行なう。

##### ①花咲かプロジェクト（50千円×8市町村）

地震による荒廃地や過疎化による耕作放棄地への種蒔きを、花咲かじいさん・ばあさん（高齢者）を中心として実施。

##### ②「お花フットパス」コース調査事業（100千円）

各市町村の集落で取り組んでいる道路沿いの花の植え付けや集落内にある花木などを巡る「お花フットパス」を構築するための調査を行なう。

##### ③その他、あそ花旅マップの発行は、助成事業を活用して作成する。



#### 【2 阿蘇エコツーリズム協会の運営・支援】

阿蘇地域への関心と入込数の回復を啓発する為、阿蘇域外の参加を対象とした自然体験型のイベント展開を行う。

#### 【3 阿蘇グリーンツーリズム協議会の支援】

農家民宿の運営者を中心に、阿蘇地域における「農泊」を推進。管内農家民宿のレベルアップ研修会を実施する。また、国の「農泊」推進に向けた施策と呼応したインバウンド受入れの体制づくりへの支援を行なう。

#### 【4 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の運営・支援】

一体的な情報発信媒体となる阿蘇くじゅう観光圏ホームページの適切な運用を図るほか、

事業  
内容



	<p>阿蘇地域の中核を担う人材育成を目的として、観光地域づくりマネージャーの育成を図る。</p> <p><b>【5 阿蘇・熊本・天草観光推進協議会へ参画】</b> 阿蘇・熊本・天草地域を観光ルートとして整備を行うため、相互連携による事業展開を実施する上記協議会への参画を図る。</p> <p><b>【6 (公社)熊本県観光連盟へ参画】</b> 県内における観光事業の進行を図り、併せて魅力ある観光地づくりと、国内及び国外からの観光客誘致を行う上記団体への参画を図る。</p> <p><b>【7 各種観光PRイベントへの参加・出展】</b> 全国各地で行われる観光PRイベントへ参加し、阿蘇地域の一体的なPRを通じて、観光資源の振興を図る。</p>
予算額	<b>【総額】</b> 2,900千円
	① あそフラワーリズムの構築・推進 500千円
	② 阿蘇エコリズム協会負担金 300千円
	③ 阿蘇グリーンリズム協議会負担金 300千円
	④ 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議負担金 500千円
	⑤ 阿蘇・熊本・天草観光推進協議会負担金 100千円
	⑥ (公社)熊本県観光連盟負担金 100千円
	⑦ 各種観光PRイベント参加費 1,000千円
	⑧ 事務経費 100千円

**【 (2) 広域連動型観光まちづくり 】**

事業内容	<p>阿蘇山麓エリアと、阿蘇を中心とした他県の周辺地域も巻き込んだ、「広域周遊型の観光まちづくり」などの形成を目指し、2020年の東京オリンピックを目途に増加が予想されるインバウンドをはじめとする観光客をターゲットに、周遊を促す取り組みや他の観光地との競争力を高める取り組み等を推進するために、人的ネットワーク等を活用しながら広域で連動できる観光まちづくりを目指す。</p> <p>平成29年度においては、阿蘇くじゅう観光圏のブランド確立に向け、観光庁の支援制度である「観光地域ブランド確立支援事業(補助率40%)」を活用するとともに、インバウンドを視野にいたった周遊及び誘客、広域の観光周遊ルートの促進を図ることを目的とした九州3観光圏連携事業を実施する。また、観光地域づくりのリーダー及び担い手育成等を図るセミナーを開催。</p> <p>平成28年熊本地震の発生に伴い、熊本県及び大分県において来訪者が大きく減少している状況においては、全国に復旧復興を広く周知するとともに、正確な情報発信を積極的に行う。</p>
------	--

また、世界水準のナショナルパークとしてのブランド化を図る国立公園満喫プロジェクトと連動し、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成に向け、観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を試験的に導入。このほか、地域住民参加型の観光イベント（体験プログラムへの参加）を開催するなど、ユネスコ世界ジオパークを初めとする世界ブランドの認識向上、地域における観光への意識を高め、阿蘇くじゅう観光圏全体で観光客を迎える気運を盛り上げる。

#### 【1 観光地域ブランド確立支援事業】

##### ①滞在プログラム魅力向上・改善等事業

###### A) 竹田市インバウンド受入対策（竹田市）

J R豊肥本線の全線復旧を見越して、外国人旅行者の域内交流を促進することが重要であることから、竹田市における滞在交流へ繋がる素材から具体的なターゲットを設定。併せて、受入環境の整備を実施し、外国人旅行者の増加を図る。

###### B) 高千穂の秋元集落田舎くらし体験確立（高千穂町）

農村の観光基盤づくりに取り組む高千穂町の村において、真の田舎生活を体験する滞在プログラムを実施する。併せて、周辺環境の整備を行い、滞在交流型の観光地域づくりを図る。

###### C) 黒川温泉の入湯手形を活用した南小国町周遊促進事業（南小国町）

入湯手形自体への特典付与による販売数増加、5万人程度存在する入湯手形購入者の町内の周遊促進を図ることを目的とする。併せて、黒川温泉以外の地域でも散歩を楽しめるよう、遊歩道の整備を行い、町内滞在者の満足度アップを図る。

###### D) 南小国町外国人観光客多言語コールセンター設置（南小国町）

増加する外国人観光客との会話、おもてなしをスムーズに行うため、多言語対応のコールセンターの設置を行う。

##### ②主たる滞在促進地区における事業

###### A) 阿蘇山上観光復興アクション（阿蘇市）

協議会運営、ハザードマップ整備、Web制作。

###### B) 阿蘇サイクルツーリズム学校（阿蘇市）

サイクルサイン計画など、基礎的な取組み支援。

###### C) ステーションディスプレイ運営（阿蘇市）

J R阿蘇駅及びJ R宮地駅のTV管理運営。

###### D) 阿蘇カルデラ復興ツアー拡充（阿蘇市）

滞在コンテンツ、全国観光圏推進協議会連携。

###### E) 阿蘇内牧温泉空間形成計画（阿蘇市）

くまもとDMO（内牧商店街活性化計画）連携。

###### F) 阿蘇神社パワーアップガイド（阿蘇市）

阿蘇神社の復興ステージと連携した観光施策。

### ③ブランド管理事業

#### A) 観光圏ブランディングデザイン策定（DC、竹田市、高千穂町）

平成29年度をもって観光圏整備実施計画の区切りを迎えるなか、国の観光ビジョン、外国人旅行者の増加など、観光を取り巻く状況が大きく変化してきた。また、当該観光圏においては、地震の発生により、観光においても大きな被害を受けるなか、復旧及び復興へと歩みを進めている。これを契機として、平成30年度から平成34年度の5カ年を区切りとする推進計画を策定し、「住んでよし、訪れてよし」の阿蘇地域一体となった滞在交流型の観光地域づくりを図る。

◆観光地域づくりマネージャー骨子（案）



- ◆阿蘇くじゅう観光圏今後の方向性  
（公財）DCに適した組織及び機能の拡充
- ◆具体的ターゲット及び目標の設定
- ◆多様な関係者（観光、農業、地域等）による意見交換



5カ年を区切りとする  
観光圏ブランディングデザイン策定

### ④その他事業

#### A) 全国観光圏推進協議会共通事業（DC、竹田市、高千穂町）

観光圏整備実施計画の認定を受けた全国の観光圏が加入する全国観光圏推進協議会において、国内外情勢、観光圏相互の情報及び意見交換等を実施する。また、JNTO主催によるEXPOジャパンへの出展及び共通のパンフレット、WEBサイトを活用した情報発信を実施。マーケティング調査における共通レポートの作成を行う。

- ◆国内外情勢及び先進的な民間企業等を招聘した人材育成研修
- ◆ツーリズムEXPOジャパン共同ブース出展
- ◆観光圏共通のパンフレット及びWEBサイトの作成
- ◆夏期及び冬季のアンケートによるマーケティング及び共通レポート作成
- ◆旅行会社等への配布を目的とした共同企画カード作成

#### 【2 九州3観光圏連携事業】

九州3観光圏による連携により、観光圏の認知度及びブランド価値の向上に繋げるため、インバウンドを視野にいたった周遊及び誘客、広域の観光周遊ルートの促進を図ることを目的として、多言語による九州3観光圏企画カード等を制作し、旅行会社等への配布を

実施する。

- ◆ 3 観光圏を繋ぐ観光モデルルート及び体験等を提案する多言語資料作成
- ◆ 旅行会社等へのセールス活動
- ◆ 九州のモデルルート提案、独自性及び目的を明確

### 【3 観光地域づくりセミナーの開催】

観光による豊かな地域づくり（観光地域づくり）の舵取り役としてのリーダー及び担い手育成、「地域づくりプラットフォーム」の概念や構築にあたっての課題、その進め方などに関するセミナーを開催する。

- ◆ 件 名：観光地域づくりセミナー（仮称）  
開催日：11月～、1月～（2回予定）

### 【4 復興プロモーション活動】

阿蘇くじゅう観光圏の滞在交流型観光地としての魅力発信と併せ、平成28年熊本地震に係る正確な情報発信を行う。また、九州3観光圏による広域の観光圏周遊ルートの促進を図る。

- ◆ 件 名：福岡インターナショナルギフトショー  
開催日：6月1日（木）から6月3日（土）まで  
会 場：マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）  
来場者：22,546人（昨年度）  
客 層：国内外旅行会社、一般等

- ◆ 件 名：VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2017（仮）  
開催日：9月21日（木）から9月23日（土）まで  
会 場：東京ビックサイト（東京都）  
来場者：369社（28ヶ国）（平成28年度実績）  
客 層：海外バイヤー及びメディア 等  
※ツーリズムEXPOジャパン期間中に同時開催される国内外旅行会社商談会への参加

### 【5 SAKURA QUALITY試験導入】

宿泊施設などの観光サービスの品質を第三者が評価し、その品質の高さを認証する観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」。質の高い観光サービス情報を発信するとともに、サービスレベルの維持向上を目的とし、阿蘇くじゅう観光圏における施設への試験導入を実施する。

- ◆ サービスレベル維持及び向上
- ◆ 積極的に情報発信



**SAKURA  
QUALITY**

＜平成29年度＞  
20施設へ試験導入



＜平成30年度～＞  
数カ年による計画的導入

【6 「ASO宣伝隊」復興プロジェクト】

地域住民参加型の観光イベント（体験プログラムへの参加）を開催し、観光への意識を高め、阿蘇くじゅう観光圏全体で観光客を迎える気運を盛り上げ、観光客への積極的なコミュニケーション啓発向上を図る。

地域住民参加型観光イベント（滞在プログラムの体験）

開催日：2回予定



- ◆世界ブランドの認識向上
- ◆地域住民の「おもてなし」の向上
- ◆観光客への積極的なコミュニケーション
- ◆熊本地震の正確な情報発信

予算額

【総額】 23,630千円

1 観光地域ブランド確立支援事業（22,250千円）

①滞在プログラム魅力向上・改善等事業（10,190千円）

- A) 竹田市インバウンド受入対策（2,600千円）
- B) 高千穂の秋元集落田舎くらし体験確立（2,500千円）
- C) 黒川温泉の入湯手形を活用した南小国町周遊促進事業（2,090千円）
- D) 南小国町外国人観光客多言語コールセンター設置（3,000千円）

②主たる滞在促進地区における事業（6,600千円）

- A) 阿蘇山上観光復興アクション（1,600千円）
- B) 阿蘇サイクルツーリズム学校（1,800千円）
- C) ステーションディスプレイ運営（600千円）
- D) 阿蘇カルデラ復興ツアー拡充（1,000千円）
- E) 阿蘇内牧温泉空間形成計画（800千円）
- F) 阿蘇神社パワーアップガイド（800千円）

③ブランド管理事業（2,700千円）

- A) 観光圏ブランディングデザイン策定（2,700千円）

④その他事業（2,760千円）

- A) 全国観光圏推進協議会共通事業（2,760千円）

2 九州3観光圏連携事業（200千円）

3 観光地域づくりセミナーの開催（250千円）

4 復興プロモーション活動（250千円）

5 SAKURA QUALITY試験導入（450千円）

6 「ASO宣伝隊」復興プロジェクト（230千円）